

今年度を振り返って

行橋支部 江田 勇輝＊

私は H18 年度の新規採用者です。今回の作文を提出するに至った経緯は、もちろんのこと自主的に・・・なんてことがあるはずもなく、「新採はみんな書くんぞ。」や「新採やししょうがない。」という新規採用者の人には馴染み深いフレーズがきっかけになっています。きっかけっていうより半強制？みたいな感じなんですけどね。一応は必死さを出して「自分には文章構成能力はないから書きたくないです。」などと新採らしくやんわりと断ってみたけど思い通じず。かくなるうへは誰かを道連れにと思い、先輩の E 崎さんを誘ってみても思い届かず。そんなこんなで自分に「しょうがないよ。新採だし。」とあの悪魔のフレーズを言い聞かせパソコンに向かっています。なんか提出日まであと 2 日なのにまだ出だしてどうなん？と自分にツッコミを入れたくなるほどこれからの話しの展開に困っています。わかりやすく言うと、カップ麺を作る時に「ポットの残り湯が少ないかな」と思いつつも空腹に耐えきれず果敢に攻めている途中、まさにその途中の容器の半分くらい注いだところでお湯がなくなった時くらい焦っていますし困っています。雀の涙ほどの脳で考えてみても皆さんが食い付きそうなネタを思いつかないので、1 年目だし無難に採用されてから今までを振り返ってみていろいろと書き綴ろうと思います。

平成 18 年 4 月 1 日付けで福岡県の土木職員として採用され、辞令を受けました。

辞令交付式では回りを見回せど知り合いと呼べる人などおらず「こいつら全員シメて俺がてっぺんにに立ってやる。」なんて野望を持ちながら鋭い眼差しで可愛い女の子を探すという健全な青少年にありがちな行動を自分も例外なく実行していました。しかしメインイベントの辞令を受け取る時にはさすがにそんな余裕がなく、持てる力の全てを出して真面目に装い「行橋土木事務所勤務を命ずる」なんて言われながら「行橋ってどこ??」ってかなり内心焦っていました。とりあえず特に誰かとしゃべる事もなく可愛い女の子を見つける事も出来ず、家に帰って行橋と呼ばれる未開の地に対する知識の開拓に勤しんだのを昨日の事かのように思う今日この頃なのであります。

辞令を貰い、いよいよ行橋土木事務所に着任した私は河川砂防課での勤務を命じられました。それから自分の机に案内され忙しそうに働いてある先輩方を昼休みまでのしばらくの間見つめながら緊張のあまりじーっと屍のごとく動きが停止していた気がしたのを覚えています。一つ誤算だったのが行くとこ行くとこで自己紹介と抱負を熱く語るという内容の挨拶をさせられたことです。そんな辱めの刑的な死線をくぐり抜け、必死でこの両足で立って歩いて生きてきました。

仕事面では優しくも面白い先輩方やかつこ良くも心強い上司に恵まれ、しばらくの間は草刈りという名の激務に追われながら工事の流れなんかを掴んでいくことが出来たような気がします。秋には災害査定の申請もさせて頂きました。査定では国家公務員を相手に申請するんですが、なぜかかなりビビっていました。もう少しフレンドリーな感じで接する事はできんのかなと思いながら緊張で震える声で恐る恐る「申請します」と言っていた気がします。詳しいことはあんまり覚えてないけど、上司の皆さんに助けられて無事に終わったことには大変感謝しております。

冬になると職場の人たちと山形県にある蔵王までスノーボードと呼ばれる遊戯をしにいきました。初めてのスノーボードに心踊らせていた私は半分本気で「2日もあればこんなの十分ですよ。」なんてほざいていました。しかし人々から蔵王と呼ばれるその聖地は私を受け入れることはありませんでした。板を履き滑り出した私の目に飛び込んできたのは、一面真っ白な世界と絶望と挫折の二文字でした…。その衝撃と云ったら、スクラッチをして500円当たった時よりも強く、CoCo 壺の2辛カレーを食べたら思いのほか汗が出てきた時より大したことないと言ったらわかって頂けるかと…。そんな時、脳裏に高い金出したことを思い出した私は不屈の精神で立ち上がり、幾度となく目の前に迫ってくる白い世界と戦いながら20時まで滑り続けました。次の日に地獄が待っていようとは知るよしもなく。こうして初日は過ぎて行きました。2日目は滑れる先輩たちに誘われて、山頂まで任意同行を求められました。まだ若かった私は調子に乗っていたのか、滑れないくせに同行することを決意したのです。その日の天気は晴れ、清々しいほどの快晴だったため樹氷がとても美しく見えました。景色に見とれていられるのもほんの僅かな時間だけで、その後は地獄の苦しみが待っていたのです。滑れない私はとりあえずコケまくって先輩を待たせまくって痛みを耐えまくりました。まさに地獄でした。先輩を待たせているというプレッシャーからくる焦りで習った事も出来ず、とにかくアホかってくらいコケまくりました。痛いし冷たいし待たせるし…あまり楽しくはなかったですよ。こうして晩飯だけを楽しみに滑った2日目は過ぎていくのでした。3日目にもなると少しは滑れるようになってきました。なんと初心者コースを堪能できるくらいの成長をみせたのです。それは、はぐれメタルスライムを2〜3匹倒したのではなかろうかと思わせるほどの経験値の稼がれ方、またはレベルの上がり方であり、2日目とはまるで別人のような滑りでした。楽しい時間とはあっという間に過ぎ去るもので、2日目の2倍のスピードで3日目は終わりを告げました。4日目(最終日)にもなると体の至る所に痛みが走り、また疲労が蓄積していました。しかし、それでも戦う男たちは体を起こし今日も聖地へ足を踏み入れたのです。待っていたのは白銀に輝く蔵王、皆は「再びこの地で会おう」と誓い合い各々の戦場へ向かったのです。そして時は過ぎ、男たちは皆が無事に帰ってきた事を喜び合い、家族のもとへ笑顔で帰ってくることができました。ただ後日談として、S田さんは肋軟骨を骨折していたそうです。

こんな感じで今日2月1日を迎えています。作文提出日を明日に控え、急ぎで作った

内容でしたので面白く出来てないかもしれませんが、最初に書いた通り私は文章構成能力に乏しいので勘弁願いたい。採用されてから今日に至るまでが何となく伝われば嬉しい限りです。ちなみにこの作文を書き上げたのが10代最後にした仕事です。今は21:05であり、後2時間55分が過ぎると20歳に昇格します。もうすぐ誕生日。何か楽しい事があることと世界が平和であることを願ってバイバイ。

＊行橋土木事務所河川砂防課